

『DVDワールド①』

宮杉 浩

今やあらゆる電子メディアの中心となっているDVD。今回から3回に渡り「DVDワールド」と銘を打ちまして、DVDについてお話ししようと思います。

DVDはCD（コンパクトディスク）と同サイズながら、より大量のデジタル情報の記録と高い耐久性を兼ね備えた光ディスクメディアです。データの記録はディスクの記録面にピットと呼ばれるくぼみを作る事で行われ、データの読みとりはCDとほぼ同じでディスクの表面にレーザー光を照射し、ピットとそれ以外の部分によって生じる反射光を検出してデータを読み出す仕組みになっています。DVDはCDに比べてデータの記録密度が高くなっていることにより、片面1面にCD 10枚分ほどのデータを記録することができるようになっています。さらに両面記録、片面2層記録が出来る事も大きな特徴です。

1996年に家庭用DVDプレーヤーの販売が開始されると、その5年後の2001年には、それまで映像メディア再生機を中心であったVTR（ビデオテープ・レコーダー）の国内出荷台数を上回りました。最近ではパソコンの光学メディア装置もDVDドライブが中心となりました。あらゆる映像ジャンルにおいてDVDはその地位を確立しているのです。

さて、DVDには物理構造、データの書き込み方式など物理フォーマットの違いによる規格、ビデオデータの書き込みの違いを示すアプリケーションフォーマットの違いによって多くの規格が存在しています。DVDという言葉聞いて皆さんがまず連想するのは、映画や音楽などの映像作品のソフトだと思いますが、これはDVD-Videoと言います。DVD-Videoとはディスクに複数の映像、音声、字幕を記録することができるアプリケーションフォーマットであり、このフォーマット規格のおかげで、一つの映画ソフトに音声、字幕切替、チャプター割などVTRでは不可能であった機能を実現することができるのです。このDVD-Videoを使用するための物理フォーマットがDVD-ROMです。

DVD-ROMはパソコンやテレビゲーム機のデータ配布用媒体として利用されている規格です。DVD-ROMは読み取り専用のメディアなので記録することはできません。その事から著作権のある映像作品、アプリケーションソフトの中心的規格として幅広く活用されています。VTRが中心だった頃は、洋画のソフトは「字幕版」、「日本語吹き替え版」と2本販売されていて、両方を一つのソフトで楽しむ事は出来ませんでしたし、チャプター機能もありませんでしたから、いつでも好きなところから観る事も出来ませんでした。テレビゲームもROMカセットやCD-ROMでは容量などの問題がありました。これがDVD-ROMによって解決され、私たちはより映像作品やテレビゲームを楽しむことができるようになったのです。

さて、今回はDVDレコーダーの普及によって急速に浸透してきた書き込み可能型DVDについてお話ししたいと思います。

みやすぎ ひろし（係・管理運営課）